

2019年度外部研究評価委員会の主要意見及び国環研の考え方

基盤的調査・研究

委員会の主要意見

現状についての評価・質問等

- 全体として、当初計画どおり、あるいは当初計画を超えた研究成果があがっていると評価する。基盤的調査・研究のレベルを高く維持することは、NIES の研究プログラムの基盤として、また新たな環境問題に挑戦する研究シーズの開発に、きわめて重要である。【年度】【見込み】
- 自己評価の一つとして、環境行政、政策への貢献も挙げてもよいのではないかでしょうか。【見込み】
- 各分野(センター)において、それぞれの第4期全体計画が示されており、それぞれでの研究計画像が分かりやすくなっている。研究の要素や基礎、アプローチ等に関しては共通性があり共有できる部分もあると判断される。各分野(センター)の研究計画を俯瞰するなどによって、効果的・効率的に調査・研究を推進する(している)などの説明も期待する。【見込み】

今後への期待など

- 高い水準の先端的な研究を精力的に行っていることを評価する。この中から将来の重要な研究基盤が形成されることを期待する。【年度】
- 今後とも、将来の研究基盤構築のために、大学等でなかなかやれない息の長い研究の継続と自由な発想に基づく新しいチャレンジの両方をバランスよく展開することを期待する。【見込み】

主要意見に対する国環研の考え方

- ① 運営費交付金は毎年度減額されて、原資の確保は非常に厳しい状況ではありますが、競争的外部資金の獲得等によって、将来の研究プログラムとなるような研究活動と自由な発想に基づく研究活動を継続していきたいと考えております。
- ② 行政・政策貢献は、「基盤的調査・研究」の評価軸の1つとしていますので、来年度以降の自己評価には、こうした貢献を含める発表にしたいと思います。
- ③ 「基盤的調査・研究」の中には、複数のセンターで実施している所内公募型研究課題も含まれています。こうした課題の多くは、複数の研究分野の要素や手法を共有して実施している課題があります。限られた発表時間の中で、「基盤的調査・研究」全体についての説明や、こうした分野横断的な基盤的研究課題について十分に説明が出来ていない点については、発表方法の見直し等を検討していきたいと思います。